

三重県競技力向上対策本部

第5回競技力向上対策委員会



平成27年9月4日（金）

プラザ洞津 明日香の間

三重県競技力向上対策本部
第5回競技力向上対策委員会 資料目次

- 三重県競技力向上対策本部 第5回競技力向上対策委員会 会議次第 P 3

- 説明・報告事項
 - (報告事項1) 役員及び委員の変更 P 7
 - (報告事項2) 三重県競技力向上対策本部 会議等開催経過 P 9
 - (報告事項3) 三重県競技力向上対策本部 第4回競技力向上対策委員会の概要 P 11
 - (報告事項4) 国民体育大会第36回東海ブロック大会等の結果 P 13
 - (報告事項5) 平成27年度三重県競技力向上対策事業の進捗状況について P 19

- 協議事項
 - (協議事項1) 三重県競技力向上対策基本方針における目標及び計画について P 33
 - (協議事項2) 競技力向上の取組の検証について P 41

- 参考資料
 - ・ 三重県競技力向上対策委員会規程 P 53
 - ・ 三重県競技力向上対策本部 競技力向上対策委員会名簿 P 55

三重県競技力向上対策本部
第5回競技力向上対策委員会 会議次第

平成27年9月4日(金)

プラザ洞津 明日香の間

1 開 会

2 あいさつ

3 説明・報告事項

- (1) 役員及び委員の変更
- (2) 三重県競技力向上対策本部 会議等開催経過
- (3) 三重県競技力向上対策本部 第4回競技力向上対策委員会の概要
- (4) 国民体育大会第36回東海ブロック大会等の結果
- (5) 平成27年度競技力向上対策関連事業の進捗状況について

4 協議事項

- (1) 三重県競技力向上対策基本方針における目標及び計画について
- (2) 競技力向上の取組の検証について

5 閉 会



説明・報告事項

役員及び委員の変更

【委員長】

選出区分	所属機関・団体・役職名	旧	新
県関係	三重県地域連携部スポーツ推進局長	世古 定	村木 輝行

【委員】

選出区分	所属機関・団体・役職名	旧	新
県関係	三重県教育委員会事務局次長	長谷川 耕一	中嶋 中
市町関係	伊勢市産業観光部観光振興課副参事	濱口 昌大	松葉 清高
市町関係	東員町教育委員会事務局社会教育課長	伊藤 英敏	石川 清
学校・スポーツ団体関係	三重県中学校体育連盟理事長	野田 朋憲	太田 秀樹
学校・スポーツ団体関係	三重バイオレットアイリス監督	池本 聡	櫛田 亮介

三重県競技力向上対策本部 会議等の開催経過

年月日	内 容
平成23年 11月15日	県、県教育委員会、財団法人三重県体育協会の連名により、文部科学省、公益財団法人日本体育協会に開催要望書を提出しました。
平成24年 1月11日	公益財団法人日本体育協会理事会において、平成33年第76回国民体育大会の本県開催が内々定されました。
平成25年 5月29日	三重県競技力向上対策本部「設立会議」、「第1回本部会議」を開催しました。
6月 3日	三重県競技力向上対策本部「第1回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月19日	三重県競技力向上対策本部「第1回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
12月13日	三重県競技力向上対策本部「第1回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
12月16日	三重県競技力向上対策本部「第1回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
平成26年 3月24日	三重県競技力向上対策本部「第2回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月22日	三重県競技力向上対策本部「第2回本部会議」を開催しました。
10月 1日	三重県競技力向上対策本部「第3回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月13日	三重県競技力向上対策本部「第2回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月19日	三重県競技力向上対策本部「第2回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
11月19日	三重県競技力向上対策本部「第2回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
平成27年 3月19日	三重県競技力向上対策本部「第4回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月22日	三重県競技力向上対策本部「第3回本部会議」を開催しました。

三重県競技力向上対策本部
第4回競技力向上対策委員会の概要

平成27年3月19日

1 開会

2 あいさつ 三重県競技力向上対策本部 競技力向上対策委員長 世古 定

3 説明・報告事項

- (1) 三重県競技力向上対策本部 会議等開催経過について
- (2) 三重県競技力向上対策本部 第3回競技力向上対策委員会の概要について
- (3) 三重県競技力向上対策本部 専門委員会の概要について
- (4) 第69回国民体育大会の結果について
- (5) 平成26年度競技力向上対策事業 実施内容及び成果について

4 審議事項

平成27年度競技力向上対策事業について

5 協議事項

(1) ジュニア・少年選手の育成・強化について

県全体でジュニア選手（小中学生）から少年（高校生）選手の育成に取り組んでいるなかで、効果的に進めるための取組について

- ・「チームみえジュニア」としての取組をさらに進めるには、小学生・中学生の指導者が同じ現場で一緒に指導に携わることが重要である。
- ・新規事業であるジュニアクラブの強化指定は、優秀な選手が所属するクラブの指導者への意識づけになる。
- ・中学校に運動部がなく、中学生以下の選手が少ない場合は、強化の拠点として地域のジュニアクラブを立ち上げることで、高校生までの育成につなげることができる。ジュニアクラブ立ち上げの際には対策本部等の助言等も必要になる。
- ・県外への選手流出に対応するため、中学校、高等学校の連携を強化するように、さらに取組を進める必要がある。

(2) 成年選手の強化について

トップレベルの選手の就職支援について、成年選手強化が安定的に図られるための取組の視点について

- ・企業側として、選手やチームを抱えることは、企業の広報になることはもちろん、

会社の一体感を醸成するという効果を実感している。今後、企業に就職支援を依頼する際には粘り強くメリットをアピールしていく必要がある。

- ・雇用スポンサーという形でチームをたくさんの事業主が支えているようなサッカーチームのしくみは参考にできる。
- ・雇用される選手は、練習環境を重要なポイントとするため、選手の配置や就労時間、雇用形態等を工夫する必要がある。
- ・経営者側からみれば、選手の雇用は経済状況が厳しい現状であり、企業負担の部分は非常に大きく、一流選手となればさらに負担も増える。競技種目によっては一体感の醸成が成り立ちにくい性質の競技もあり、先催県の状況もふまえ、官・民の割合を検討する必要がある。
- ・受け入れる選手の競技レベル等を精査するシステムやマッチングのやり方を工夫する必要がある。

(3) 女性アスリートに対する取組について

女子選手が競技を継続することが難しくなる現状がある等の課題に対し、女性アスリートサポート事業に取り組むためのポイントについて。

- ・女子選手の妊娠・出産の時期に育児のサポート体制がない状況で競技を続けることは難しく、サポート体制ができれば競技を続けられる選手もいる。
- ・学校の指導現場では圧倒的に男性の指導者が多く、剣道においては、女子選手が指導者として活躍する場も教員や警察官だけと、門戸が狭い状況である。
- ・妊娠・出産した時、いつ競技を再開してよいのか、トレーニングはどこまでしてもよいのか全く見当もつかないので、アドバイスが得られる体制が必要である。
- ・月経不順等の女性特有の症状がある選手について、原因がスポーツやトレーニングにあるのか、個人の体質にあるのか指導者にはわからない、現場で指導者にアドバイスする体制があってもよいのではないか。
- ・けがをして、病院に行くことはあっても、体調管理のために検査に行くことには抵抗がある。そういった意識を改善したり、補助制度があるとよい。
- ・国においても女性がトップ競技者として競技やトレーニングを継続する困難さについては様々な要因を指摘しているが、すべてをサポートすることは難しく、どこに重点をおいてサポートに取り組むかが重要である。

国民体育大会第36回東海ブロック大会成績一覧表

<H27年度・三重県開催>

○数字は通過順位を示す

No.	競技名	種別	種目	選手数	参考前年	代表	愛知	静岡	岐阜	三重			
1	水泳	少年男子	水球	11	1	—	2	4	②	①	3		
		少年女子	シンクロ	2	2	—	2	①	②	—	3		
2	サッカー	成年男子		15	2	—	1	3	2	3	①		
		女子		15	2	—	1	3	2	3	①		
3	テニス	成年男子				—		ストレート	ストレート	ストレート	ストレート		
		成年女子			3	—		ストレート	ストレート	ストレート	ストレート		
4	ボート	成年男子	舵手付フォア	6	2	—	2	②	3	①	4		
			ダブルスカル			—		ストレート	ストレート	ストレート	ストレート		
		成年女子	シングルスカル	1	2	→	2	②	4	3	①		
			舵手付クドルブル	6	2	→	1	①	3	2	—		
		少年男子	ダブルスカル	2	1	→	2	4	②	①	3		
			シングルスカル	1	1	→	2	3	②	①	4		
		少年女子	舵手付クドルブル	6	2	→	2	②	3	①	4		
			ダブルスカル	2	1	→	1	3	①	2	4		
		5	ホッケー	成年男子		18	1	→	1	①	3	2	3
				成年女子		18	1	→	1	3	2	①	3
6	ボクシング	成年男子		5	2	→	2	①	②	3	4		
		少年男子		5	2	→	2	①	4	3	②		
7	バレーボール	成年男子	6人制	12	1	→	1	2	①	3	3		
		成年女子	6人制	12	1	→	1	2	3	①	3		
		少年男子		12	2	→	2	①	3	4	②		
		少年女子		12	2	→	2	①	②	4	3		
8	体操	成年男子	競技	5	1	→	1	3	2	4	①		
			新体操			—		休 止					
		成年女子	競技	5	1	→	1	2	①	3	4		
			新体操			—		①	②	③	4		
		少年男子	競技	5	2	→	2	①	4	②	3		
			新体操			—		①	②	4	③		
9	バスケットボール	成年男子		12	1	→	1	①	3	2	3		
		成年女子		12	1	→	1	2	①	3	3		
		少年男子		12		—	1	①	2	3	3		
		少年女子			1	→		ストレート	ストレート	ストレート	ストレート		
10	ウェイトリフティング	成年男子		9	3	→	3	②	4	①	③		
		少年男子			→		ストレート	ストレート	ストレート	ストレート			
11	ハンドボール	成年男子		15	2	→	2	①	4	3	②		
		成年女子		15	2	→	1	2	3	3	①		
		少年男子		15	2	→	2	①	3	4	②		
		少年女子		15	2	→	2	①	3	4	②		
12	ソフトテニス	成年男子			1	→		ストレート	ストレート	ストレート	ストレート		
		成年女子		5	1	→	2	3	4	①	②		
		少年男子		5	1	→	2	①	3	4	②		
小計①				370	69		69	24	15	15	15		

No.	競技名	種別	種目	選手数	参考前年	代表	愛知	静岡	岐阜	三重	
13	卓球	成年男子		3	3	→	2	①	4	②	3
		成年女子			1	→		ストレート	ストレート	ストレート	ストレート
		少年男子		3	2	→	3	①	②	③	4
		少年女子		3	→	1	①	3	2	4	
14	軟式野球	成年男子		15	3	→	2	②	3	4	①
15	馬術	※ 自馬競技		17	18	→	18	3	8	4	3
		少年 団体障害		1	→	1	3	①	4	2	
16	フェンシング	成年男子				→		ストレート	ストレート	ストレート	ストレート
		成年女子		4	1	→	1	3	4	①	2
		少年男子		4	2	→	1	2	3	①	4
		少年女子		4	1	→	2	②	3	①	4
17	柔道	成年男子				→		ストレート	ストレート	ストレート	ストレート
		成年女子		3	1	→	2	②	①	4	3
		少年男子		5	1	→	1	①	3	4	2
		少年女子		3	1	→	1	①	2	3	4
18	ソフトボール	成年男子		15	1	→	1	①	3	2	3
		成年女子		16	1	→	1	①	3	2	3
		少年男子		16	1	→	1	2	①	3	3
		少年女子		16	1	→	1	①	3	3	2
19	バドミントン	成年男子		3		→	1	3	2	①	4
		成年女子			1	→		ストレート	ストレート	ストレート	ストレート
		少年男子		3	1	→	2	①	3	4	②
20	弓道	成年男子		3	3	→	1	2	4	3	①
		成年女子		3	2	→	2	4	3	①	②
		少年男子		3	2	→	2	②	3	①	4
		少年女子		3	2	→	2	①	②	4	3
21	ライフル射撃	成年男子	50m3×40M	1	3	→	2	4	②	①	3
			50mP60M K20M	1	3	→	3	②	①	③	4
			10m S60M・P60M		3	→		ストレート	ストレート	ストレート	ストレート
			10m AP60M	1	1	→	1	3	2	①	4
			CP60M CP30M			→		ストレート	ストレート	ストレート	ストレート
		成年女子	50m3×20V P60V	1	2	→	2	①	②	3	—
			10m S40V・P40V	1		→	2	3	①	②	4
			10m AP40V	1	1	→	1	2	①	3	4
			BR S40V T60V			→					
			10mS60JM	1		→	3	4	②	①	③
少年男子	BR S60JM S30JM	1	2	→	2	3	3	①	②		
	BP40JM	1	2	→	2	②	3	①	4		
少年女子	10mS40JV		2	→		ストレート	ストレート	ストレート	ストレート		
	BRS40JV S20JM	1	2	→	2	②	3	①	4		
	BP40JV	1	1	→	1	2	4	①	3		
22	剣道	成年男子				→		ストレート	ストレート	ストレート	ストレート
		成年女子		3	1	→	1	2	3	①	4
		少年男子		5	1	→	1	3	2	①	4
		少年女子		5	1	→	1	3	2	①	4
23	ラグビーフットボール	成年男子		10	1	→	1	①	3	4	2
		少年男子		23	1	→	1	①	3	2	3
24	山岳	成年男子	リード・ボルダリング			→		ストレート	ストレート	ストレート	ストレート
		成年女子	リード・ボルダリング	2	1	→	2	4	①	②	3
		少年男子	リード・ボルダリング	2	2	→	2	4	3	①	②
		少年女子	リード・ボルダリング	2	1	→	1	①	2	3	4
小計② (15馬術・自馬競技除く)				211	65		64	21	12	23	8

○数字は通過順位を示す

№	競技名	種別	種目	選手数	参考前年	代表	愛知	静岡	岐阜	三重	
25	カヌー	成年男子	K-1(カヤックS)	1	2	→	2	①	3	3	②
			C-1(カナディアンS)	1	2	→	2	①	②	3	—
			スラローム	1	2	→	2	②	3	①	—
			ワイルドウォーター	1	2	→	2	3	②	①	—
		成年女子	K-1(カヤックS)	1	2	→	2	②	①	3	4
			スラローム	1	2	→	2	②	4	①	3
			ワイルドウォーター	1	1	→	1	3	①	2	—
		少年男子	K-1(カヤックS)	1	3	→	3	①	②	③	4
			K-2(カヤックP)	2	1	→	1	①	2	3	—
			K-4(カヤックF)	4	—	→	1	①	2	4	3
			C-1(カナディアンS)	1	2	→	2	①	②	3	4
		少年女子	C-2(カナディアンP)	2	1	→	1	①	2	3	4
			K-1(カヤックS)	1	2	→	2	①	②	3	—
			K-2(カヤックP)	2	1	→	1	①	2	3	—
					K-4(カヤックF)	1	—	—	—	—	—
26	アーチェリー	成年男子		3	2	→	2	3	②	①	4
		成年女子		3	2	→	2	②	①	3	4
		少年男子		3	1	→	1	①	3	2	4
		少年女子		3	1	→	1	3	4	2	①
27	空手道	成年男子	組手(個人・団体)		—	→	—	ストレッチ	ストレッチ	ストレッチ	ストレッチ
			形	1	2	→	2	②	4	①	3
		成年女子	組手(個人・団体)		—	→	—	ストレッチ	ストレッチ	ストレッチ	ストレッチ
			形	1	2	→	2	②	3	①	4
		少年男子	組手(個人・団体)		—	→	—	ストレッチ	ストレッチ	ストレッチ	ストレッチ
			形	1	—	→	2	3	②	①	4
少年女子	組手(個人・団体)		—	→	—	ストレッチ	ストレッチ	ストレッチ	ストレッチ		
	形		2	→	—	ストレッチ	ストレッチ	ストレッチ	ストレッチ		
28	銃剣道	成年男子		—	→	—	ストレッチ	ストレッチ	ストレッチ	ストレッチ	
		少年男子		4	1	→	1	①	—	—	2
29	クレール射撃	トラップ		—	→	—	ストレッチ	ストレッチ	ストレッチ	ストレッチ	
		スキート	6	3	→	3	③	4	②	①	
30	なぎなた	成年女子	演技・試合		—	→	—	ストレッチ	ストレッチ	ストレッチ	ストレッチ
		演技		—	→	—	ストレッチ	ストレッチ	ストレッチ	ストレッチ	
少年女子	試合	3	3	→	3	③	4	②	①		
31	ボウリング	成年男子		4	2	→	2	①	4	②	3
		成年女子		4	2	→	2	②	4	①	3
		少年男子		2	3	→	3	①	4	③	②
		少年女子		2	3	→	3	②	①	4	③
32	ゴルフ	成年男子		—	→	—	ストレッチ	ストレッチ	ストレッチ	ストレッチ	
		女子		—	→	—	ストレッチ	ストレッチ	ストレッチ	ストレッチ	
		少年男子		3	2	→	2	②	4	3	①
小計③				63	55		55	24	11	13	7
合計(①+②+③)				644	189		188	69	38	51	30

(注1) 各県欄の数字は順位。○数字が代表権獲得県。

(注2) 15 馬術：自馬競技は、国体への出場選手数を代表数として計算。

※15 馬術： 自馬競技代表数内訳	代表	愛知	静岡	岐阜	三重
成年男子 代表数	7	1	3	2	1
成年女子 代表数	5	1	2	1	1
少年 代表数	6	1	3	1	1
小計	18	3	8	4	3

総計 (合計+※15 馬術)	代表	愛知	静岡	岐阜	三重
	206	72	46	55	33

【通過数及び出場枠占有率】

	1位(突破率)	2位(突破率)	3位(突破率)	合計(突破率)
愛知県	46 41%	21 32%	2 18%	69 37%
静岡県	17 15%	21 32%	0 0%	38 20%
岐阜県	37 33%	9 14%	5 45%	51 27%
三重県	12 11%	14 22%	4 36%	30 16%
合計	188種別	(馬術：自馬競技の4県枠除く)		

【通過数の内訳】

	成年男子			成年女子			少年男子			少年女子		
	①通過	②通過	③通過	①通過	②通過	③通過	①通過	②通過	③通過	①通過	②通過	③通過
愛知県	10	7	1	5	6	0	18	5	0	13	3	1
静岡県	2	5	0	9	1	0	3	8	0	7	10	0
岐阜県	10	3	1	9	3	0	13	1	3	5	2	1
三重県	5	3	1	2	2	0	1	8	1	4	1	2
合計	48	18	3	37	11	1	61	10	1	42	17	4

※東海大会を実施しない競技→水泳(競泳、飛込)、陸上、セーリング、レスリング、自転車、相撲、テニス

※平成20年 第29回大会から馬術(少年)団体障害をカウントに含む。

国体(ブロック予選)	愛知県	静岡県	岐阜県	三重県	通過枠合計
平成27年 和歌山県(第36回 予選通過)	69種目(36.7%)	38種目(20.2%)	51種目(27.1%)	30種目(16.0%)	188種目
平成26年 長崎県(第35回 予選通過)	68種目(36.0%)	36種目(19.0%)	61種目(32.3%)	24種目(12.7%)	189種目
平成25年 東京都(第34回 予選通過)	66種目(35.3%)	39種目(20.9%)	60種目(32.1%)	22種目(11.8%)	187種目
平成24年 岐阜県(第33回 予選通過)	75種目(49.3%)	48種目(31.6%)	開成県(全種別参加)	29種目(19.1%)	152種目
平成23年 山口県(第32回 予選通過)	68種目(35.2%)	34種目(17.6%)	63種目(32.6%)	28種目(14.5%)	193種目
平成22年 千葉県(第31回 予選通過)	62種目(33.0%)	43種目(22.9%)	61種目(32.4%)	22種目(11.7%)	188種目
平成21年 新潟県(第30回 予選通過)	67種目(35.4%)	39種目(20.6%)	62種目(32.8%)	21種目(11.1%)	189種目
平成20年 大分県(第29回 予選通過)	70種目(36.5%)	45種目(23.4%)	52種目(27.1%)	25種目(13.0%)	192種目
平成19年 秋田県(第28回 予選通過)	64種目(37.2%)	44種目(25.6%)	41種目(23.8%)	23種目(13.4%)	172種目
平成18年 兵庫県(第27回 予選通過)	69種目(38.1%)	47種目(26.0%)	42種目(23.2%)	23種目(12.7%)	181種目

平成27年度全国高等学校総合体育大会 三重県選手団入賞者一覧

場 所:和歌山・兵庫・奈良・滋賀県・大阪・京都府
(自転車競技ロード:三重)

期 間:7月28日～8月20日

団体

成 績	競技種目	性別	種別	学校名	指導者
優勝	ウエイトリフティング	男子	学 校 対 抗	四 日 市 工 業	宮 崎 彰 也
2位	ア ー チ ョ ー	女子	団 体	四 日 市 四 郷	久 野 圭 太
3位	テ ニ ス	男子	団 体	四 日 市 工 業	徳 丸 真 史
3位	ソ フ ト テ ニ ス	男子	団 体	三 重	玉 川 裕 司
5位	登 山	男子	団 体	神 戸	本 原 光 喜
7位	自 転 車	男子	ロード学校対抗	暁	服 部 正 忠
8位	登 山	女子	団 体	神 戸	岸 田 誠 司

個人

成績	競技種目	性別	種別	氏名	学校名	指導者
優勝	陸上競技	男子	ハンマー投	村木 亮太	久居	松本 基之
優勝	体操(新体操)	男子	個人	堀 孝輔	高田	山崎 和俊
優勝	体操(新体操)	男子	スティック	堀 孝輔	高田	
優勝	ウエイトリフティング	男子	56kg級C&J	古屋 敷拓也	四日市工業	宮崎 彰也
優勝	ウエイトリフティング	男子	62kg級トータル	小野 平伍	四日市工業	
優勝	ウエイトリフティング	男子	62kg級C&J	小野 平伍	四日市工業	
優勝	ウエイトリフティング	男子	85kg級トータル	柳川 友章	亀山	石井 伸子
優勝	ウエイトリフティング	男子	85kg級スナッチ	柳川 友章	亀山	
優勝	ウエイトリフティング	男子	+105kg級トータル	川村 正輝	四日市工業	宮崎 彰也
優勝	ウエイトリフティング	男子	+105kg級スナッチ	川村 正輝	四日市工業	
優勝	ウエイトリフティング	男子	+105kg級C&J	川村 正輝	四日市工業	
優勝	レスリング	男子	60kg級	成國 大志	いなべ総合学園	藤波 俊一
2位	陸上競技	男子	4×100mR	角谷 隆夫 川村 伊藤	四日市工業	丸山 友加里
2位	体操(新体操)	男子	リング	堀 孝輔	高田	山崎 和俊
2位	柔道	男子	60kg級	羽田野 航	四日市中央工業	弓矢 竜太
2位	ウエイトリフティング	男子	56kg級トータル	古屋 敷拓也	四日市工業	宮崎 彰也
2位	ウエイトリフティング	男子	69kg級スナッチ	黒宮 広行	四日市中央工業	森 浩之
2位	ウエイトリフティング	男子	85kg級C&J	柳川 友章	亀山	石井 伸子
2位	ウエイトリフティング	男子	+105kg級トータル	横山 太偉雅	四日市工業	宮崎 彰也
2位	ウエイトリフティング	男子	+105kg級スナッチ	横山 太偉雅	四日市工業	
2位	ウエイトリフティング	男子	+105kg級C&J	横山 太偉雅	四日市工業	
3位	柔道	男子	100kg超級	佐野 世純	四日市中央工業	弓矢 竜太
4位	陸上競技	男子	八種競技	篠原 頌実	伊賀白鳳	山家 由久
5位	陸上競技	男子	5000m	塩澤 稀夕	伊賀白鳳	中武 隼一
5位	水泳(競泳)	男子	200mバタフライ	阪本 祐也	三重	
5位	テニス	男子	ダブルス	島袋・鈴木	四日市工業	徳丸 真史
5位	テニス	男子	シングルス	島袋 将	四日市工業	
5位	卓球	男子	シングルス	辻 智貴	白子	瀬古 広毅
5位	ウエイトリフティング	男子	53kg級トータル	小林 肇	四日市中央工業	森 浩之
5位	ウエイトリフティング	男子	53kg級C&J	小林 肇	四日市中央工業	
5位	ウエイトリフティング	男子	56kg級スナッチ	古屋 敷拓也	四日市工業	宮崎 彰也
5位	ウエイトリフティング	男子	69kg級トータル	黒宮 広行	四日市中央工業	森 浩之
6位	陸上競技	男子	円盤投	中村 光希	三重	大本 裕樹
6位	陸上競技	男子	4×400mR	山本 新 直江 奥 谷川	宇治山田商業	小池 弘文
6位	ウエイトリフティング	男子	62kg級スナッチ	小野 平伍	四日市工業	宮崎 彰也
7位	陸上競技	男子	ハンマー投	山中 大勢	宇治山田	野崎 英章
7位	陸上競技	男子	やり投	濱崎 優紀	宇治山田商業	小池 弘文
7位	水泳(競泳)	男子	100mバタフライ	阪本 祐也	三重	
7位	ウエイトリフティング	男子	53kg級スナッチ	小林 肇	四日市中央工業	森 浩之
7位	自転車競技	男子	ロード・レース	天春 雄也	暁	服部 正忠
8位	自転車競技	男子	1kmタイムトライアル	山本 光洋	朝明	百々 敦史

報告事項4-3

平成27年度全国中学校体育大会 三重県選手団入賞者一覧

場所：北海道、秋田県、岩手県、
山形県、宮城県、青森県、
福島県

期間：8月17日～25日

団体

	成績	競技種目	性別	種別	学校名
1	3位	ハンドボール	女子	団体	朝明
2	5位	ハンドボール	男子	団体	菰野

個人

	成績	競技種目	性別	種別	氏名	学校名
1	2位	柔道	男子	73kg級	山村 陸斗	久居
2	2位	陸上競技	男子	走幅跳	長澤 拓輝	城田
3	3位	水泳(競泳)	男子	平泳ぎ100m	谷口 卓三	滝
4	3位	陸上競技	男子	棒高跳	田中 悠貴	多気
5	5位	卓球	男子	シングルス	戸上 隼輔	橋南
6	6位	陸上競技	女子	4×100mR	太田 水野 本 浅野	大木
7	8位	陸上競技	女子	四種競技	藤田 紗江	嬉野

平成27年度三重県競技力向上対策事業の進捗状況について

	事業名	柱	取組内容
①	ジュニア選手発掘事業	ジュニア・少年選手	水球・飛込・ボート・ボクシング・ボウリング・ホッケーの6競技種目において、スポーツ体験会、育成プログラム、教育プログラムを実施し、新たなジュニア選手を発掘。
②	チームみえジュニア育成事業		各競技団体が行う将来有望なジュニア選手の育成活動を支援。(35競技団体)
③	チームみえジュニア指定、指導者・保護者研修プログラム事業		将来活躍が期待できるジュニアアスリート622名を「チームみえジュニア」として指定し、知事より指定証を交付。選手や指導者・保護者への研修会を実施。
④	ジュニアクラブ強化指定事業		本年度、全国大会での活躍が期待できる2クラブを強化指定し、強化活動等を支援。
⑤	中学校運動部強化指定事業		14校14部を強化指定し、合宿や遠征等の強化活動を支援。
⑥	中学生H30インターハイ強化事業		中学校合同練習会を11競技専門部が実施。
⑦	高等学校運動部強化指定事業		31校66部を強化指定し、合宿や遠征等の強化活動を支援。
⑧	高校生H30インターハイ強化事業		高校合同練習を25競技専門部が、中高合同練習を8競技専門部が実施。
⑨	高校生トップアスリート研修事業		全国高校総体、国体等の上位入賞した選手・指導者を対象に研修会を実施予定。
⑩	トップジュニア育成事業		世界大会等で活躍するジュニア選手11名を「チームみえスーパージュニア」として指定し、強化活動を支援。
⑪	チームみえ国体選手強化事業	少年・成年選手共通	和歌山国体20位台、1,000点を目標として、入賞の可能性のある競技団体を指定し、その強化活動を支援。
⑫	トップ選手強化事業		競技団体が行う年間を通じた強化活動を支援。
⑬	女性アスリートサポート事業		研修会を開催。県産婦人科医学会の協力を得て相談窓口を開設。女子新種目の体験会を開催予定。
⑭	大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業	成年選手	本年度、全国大会での活躍が期待できる11チームをA強化指定、平成33年の国体で活躍がきる6チームをB強化指定し、強化活動等を支援。
⑮	スポーツ指導員配置事業		ジュニア・少年選手の競技力向上及び指導者の資質向上を図るため、トップアスリートを指導者として配置。(3名:飛込、セーリング、なぎなた)
⑯	トップアスリート就職支援事業		成年選手の競技力向上を図るため、企業や事業所等に対し、トップアスリートの採用にかかる説明を行うとともに、競技団体の強化計画についての調査を実施。
⑰	チームみえ指導者研修事業	指導者	三重県代表チームを指導する監督、コーチ、スタッフ等を対象に研修会を実施予定。
⑱	強化指定運動部、チーム指導者研修事業		強化指定した運動部・チームの指導者の資質向上のための研修会を年3回実施予定。
⑲	公認スポーツ指導者養成事業		公認スポーツ指導者資格の取得を促進するための支援。
⑳	特別コーチ派遣事業		オリンピック選手や優れた指導者を競技団体の強化活動に派遣。(10競技団体)
㉑	環境整備補助事業	環境整備	競技団体に対して競技力向上に係る備品を整備。(8競技団体)
㉒	医・科学サポート事業		競技団体が国体に向けて実施する強化活動における医・科学の専門家の活用を支援。(7競技団体)
㉓	みえのアスリート応援・発信事業	しくみづくり	県代表選手を紹介する広報誌発行、選手団の統一したポロシャツの作成。

ジュニアクラブ強化指定事業 実施方針
(委託事業)

平成27年度当初予算【450千円】

1 目的

将来有望な中学生選手を育成している、各地域のジュニアクラブを指定し、その強化活動を支援することで、長期的な競技力の向上を図る。

2 対象

国民体育大会の正式競技及び平成28年度に新たに正式競技となる競技の県内のジュニアクラブとする。

3 指定期間

指定日から平成28年3月までの単年度指定とする。

4 選定方法

対策本部は、競技団体から平成27年度に全国大会で活躍が期待できる中学生選手の育成を行っているジュニアクラブの推薦を受け選考し指定を行う。

※ 推薦を受けたジュニアクラブにおいても、活動状況・活動人数等の実態が十分でないと思われる場合は、指定を行わないこともある。

5 補助対象

強化指定ジュニアクラブに対しては、全国大会での活躍を目的とした中学生選手の強化活動のうち、旅費、宿泊費、施設使用料、強化練習の一貫として参加する大会参加料、消耗品費、医科学スタッフ、技術指導スタッフ等の経費の支援を予算の範囲内で行う。

6 年間計画

4月	強化指定クラブ選定、指定決定
5～3月	強化活動支援

ジュニアクラブ強化指定推薦要領

各競技団体は本推薦要領に基づき、三重県競技力向上対策本部に強化指定ジュニアクラブを推薦することとする。

1 推薦できるジュニアクラブの範囲

県内で定期的に活動し、中学生選手が所属しているクラブのうち、平成27年度に全国大会で入賞するなどの期待ができるクラブ等とする。

- ・各競技団体が中学生選手を育成しているジュニアクラブとしてその活動を認めているクラブに限る。
- ・複数の拠点（教室・道場・支部等）で活動しているクラブでも、推薦が行えるのは各拠点別とする。

2 推薦基準及び手順

競技団体は、次の基準により、平成27年度の全国大会等において、中学生選手の活躍が期待できるジュニアクラブを、推薦することとする。

また、平成27年度については、県中学校体育連盟に加盟していない競技を優先的に指定する。

- ・中学生選手が5名以上所属しており、過去3年間の全国大会において複数年度にわたり入賞の実績があるクラブ（個人種目のみの実績の場合は複数名であること）について、最も平成27年度に活躍が期待できる1クラブを推薦することとする。

※所属選手、入賞選手の性別は男女を問わない。

※全国大会とは、中央競技団体が主催する大会とする。

平成27年度 ジュニアクラブチーム強化指定チーム

No.	クラブ名	競技名	性別	中学生選手在籍数
1	一志ジュニアレスリング教室	レスリング	男子・女子	5
2	三重ウォーターポロスターズ	水球	男子・女子	23

トップジュニア育成事業 実施方針
(対策本部実施事業)

平成27年度当初予算【3,000千円】

1 目的

県民の皆さんからの寄附金を財源として、全国大会等で優秀な成績を収め、将来、国民体育大会やオリンピック等の大規模大会での活躍が期待されるジュニア選手を対象に、強化活動を支援することにより、選手の育成・強化を図る。

2 対象

将来、国民体育大会やオリンピック等の大規模大会での活躍が期待される本県の中学生及び高校生とする。

3 実施内容

(1) 強化選手の指定

対策本部長（知事）は、競技団体の推薦を受けて、将来、国民体育大会やオリンピック等の大規模大会での活躍が期待される本県の中学生及び高校生を強化指定する。

(2) 強化活動の支援

強化指定選手に対しては、全国大会等での活躍を目的とした強化活動のうち、県外遠征等の旅費、コーチ招へいに係る報償費・旅費を支援する。

4 年間計画

4月から随時	寄附金の募集
7月	平成27年度強化指定選手の推薦・選定
8月上旬	平成27年度強化指定選手の決定
指定日	強化活動の支援

トップジュニア育成事業に係る「チームみえスーパージュニア」指定候補
選手推薦要領

1 対象

国民体育大会やオリンピックの正式種目で、国内外の大規模な大会で活躍が期待できる県内中学校および高等学校に在籍する選手とする。

2 推薦基準

平成26年度全国大会で優秀な成績を収め、今後も全国大会や国際大会などの大規模な大会において活躍が期待され、次の基準を満たしている選手とする。

- (1) 平成26年度の全国大会*¹で優勝、または、国際大会*²で3位入賞以上の実績がある。
- (2) 平成27年度に日本代表や日本選抜チームに選ばれるなど、個人として今後の活躍が期待できる。

※1 全国大会 ① 国民体育大会

② 全国中学校体育大会、ジュニアオリンピック

③ 全国高等学校総合体育大会、全国高等学校選抜選手権大会

④ ①・②・③と同じ競技レベルと認められる大会

※2 国際大会 ① 世界ジュニア・ユース大会、アジアジュニア・ユース大会

② ①と同じ競技レベルと認められる大会

3 推薦方法

- (1) 各競技団体は、上記2の推薦基準を満たすと判断できる場合、三重県競技力向上対策本部に対象となる選手を推薦することができる。
- (2) 県内に競技団体がないオリンピック正式種目のうち、上記2の推薦基準を満たすと判断できる場合は、所属する団体（クラブチーム等）より、三重県競技力向上対策本部に推薦することができる。

4 その他

指定選手の選考については、各競技団体等の推薦があった選手をもとに、競技実績・活動状況等により、三重県競技力向上対策委員会で行う。

平成27年度チームみえスーパージュニア指定選手

平成27年8月10日現在

No	競技名	性別	種目・階級	選手名	所属(クラブチーム)	学年
1	テニス	男		島袋 将	三重県立四日市工業高等学校	3
2	レスリング	男	フリースタイル (54kg級)	成國 大志	三重県立いなべ総合学園高等学校	3
3	レスリング	女	フリースタイル (52kg級)	奥野 春菜	三重県立久居高等学校	2
4	レスリング	男	フリースタイル (59kg級)	基山仁太郎	三重県立いなべ総合学園高等学校	1
5	ウェイトリフティング	男	+105kg級	川村 正輝	三重県立四日市工業高等学校	3
6	ウェイトリフティング	女	63kg級 (69kg級)	石井 未来	三重県立亀山高等学校	3
7	ウェイトリフティング	男	77kg級 (85kg級)	柳川 友章	三重県立亀山高等学校	2
8	ソフトテニス	男		田邊 雅人	三重高等学校	2
9	ソフトテニス	男		内田 理久	三重高等学校	2
10	山岳	女	女子ユースA	田嶋あいか	三重県立津高等学校	2
11	山岳	男	男子ユースB	田嶋 瑞貴	津市立橋南中学校	3

女性アスリートサポート事業の進捗状況について

1 研修会の開催

平成27年7月20日（月）、プラザ洞津において、各競技団体から232名の参加者を得て「みえ女性スポーツ指導者の会」を発足し、第1回研修会を開催しました。

研修会では、講師に有森裕子氏を招聘し、「よろこびを力に」という演題で講演をいただくとともに、県内指導者とのパネルディスカッションを行いました。



発足式



研修会の様子



講師：有森裕子氏

2 相談窓口の開設

県産婦人科医会と連携し、平成27年8月1日以降、11月末までに16回にわたり、電話による相談窓口を開設します。

強化指定運動部、大学運動部、企業・クラブチームに所属する約600名とその保護者、指導者からの女性特有の悩みや相談に対して県内の女性産婦人科医が助言を行います。

3 体験会の開催

平成28年の岩手国体以降、新たに正式競技として導入される女子の競技・種目のうち、ラグビー競技と自転車競技において、競技人口の拡大を図るための体験会を11月頃に開催する予定です。

大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業 実施方針
(対策本部実施事業)

平成27年度当初予算【15,434千円】

1 目的

平成33年に本県で開催する国民体育大会において、天皇杯・皇后杯の獲得を目指すため、第70回国民体育大会での活躍が期待される大学運動部、企業・クラブチーム等の指定を行い、成年選手の重点的な競技力向上を図る。

2 対象

国民体育大会の正式競技である県内の大学運動部、企業・クラブチーム等とする。

3 指定期間

平成27年4月から平成28年3月までの期間とする。

4 強化指定チームの指定

(1) 強化指定候補チームの選出

【A強化指定】

全日本選手権大会、全日本大学選手権大会等において、過去3年以内に次の基準を満たし、本年度も同様の大会で活躍が期待できるチームについては、所属競技団体と協議を行い、選出する。

また、第70回国民体育大会において活躍が期待できるチームについても、所属競技団体と協議を行い、選出する。

〔基準〕 ① 団体戦で、ベスト8以上の成績を収めている。

② 個人戦で、複数人が3位以上の成績を収めている。

【B強化指定】

平成33年に本県で開催する国民体育大会での活躍が期待される成年種別のチーム、及び国民体育大会（東海ブロック大会を含む）に出場できていない成年種別において、新たにチーム結成を行い、三重県代表として出場するチームについては、推薦要領に従い、各競技団体からの推薦・協議のうえ選出する。

(2) 強化指定運動部・チームの決定

選出されたチームについては、競技力向上対策委員会において検討・決定する。

5 実施内容

指定されたチームには、全国大会での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、指導者の報償費、施設使用料、強化練習の一貫として参加する大会参加料、消耗品費、医科学スタッフ、技術指導スタッフ等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が必要と認めた経費に関しては、予算の範囲内で支援を行う。

6 年間計画

5月 指定証交付

随時 強化活動支援

大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業B強化指定に係る推薦要領

1 目的

平成33年に本県で開催する国民体育大会での活躍が期待される成年種別のチームを指定し、強化活動の支援を行うことで、成年選手の中長期的な競技力向上を図る。

2 対象

国民体育大会の正式競技である県内の大学運動部、企業・クラブチーム等とする。

3 実施期間

選考結果及び助成金額の通知日～平成28年3月31日

4 対象経費

指定されたチームには、全国大会での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、指導者の報償費、施設使用料、強化練習の一貫として参加する大会参加料、消耗品費、医科学スタッフ、技術指導スタッフ等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が必要と認めた経費に関しては、予算の範囲内で支援を行う。

5 推薦基準

(1) 平成33年に本県で開催する国民体育大会での活躍が期待されるチームで、次の基準をすべて満たしていることとする。

- 平成26年度に全国大会*に出場、もしくは出場した選手がおり、平成27年度も同等の活躍が期待できる。
- 全国大会での優秀な競技実績もしくは指導実績を有する指導者がおり、選手の勧誘・強化に積極的に取り組んでいる。
- 強化活動拠点が存在する。

- *全国大会 ① 全日本選手権大会
 ② 全日本学生選手権大会
 ③ ①・②と同じ競技レベルと認められる大会

(2) 国民体育大会（東海ブロック大会を含む）に出場できていない成年種別において、新たにチーム結成を行い、三重県代表として出場するチームで、次の基準をすべて満たしていることとする。

- 国民体育大会第36回東海ブロック大会に出場する。
- 指導者が存在する。
- 強化活動拠点が存在する。

6 推薦方法

競技団体は、推薦基準を満たしているチームが存在する際は、別添推薦書様式に必要事項を記入し、三重県競技力向上対策本部に推薦することができる。

7 選考方法

三重県競技力向上対策本部は、各競技団体より推薦を受けた強化指定候補チームについて、推薦書・ヒアリング等をもとに競技実績、活動状況等を調査し、選考する。

平成27年度大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業に係る強化指定チーム

【B強化指定】

	チーム名	競技名
1	三重県警察（柔道）	柔道
2	三重県警察（剣道）	剣道
3	女子三重クラブ	ホッケー
4	AGF陸上競技部	陸上競技
5	名張乗馬クラブ	馬術
6	皇學館大学柔道部	柔道

トップアスリート就職支援事業の進捗状況について

全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリートの県内への就職を支援し、成年選手の競技力向上を図る本事業の趣旨を関係団体等に説明するとともに、協力依頼や実態調査を下記のとおり、進めています。

【経済団体への取組】

商工会議所連合会、商工会連合会、中小企業団体中央会、経営者協会及び各市町の会議所や商工会に本事業の趣旨を説明し、協力依頼を行いました。現在は、企業や事業所等を訪問し、トップアスリートの採用依頼を行っているところです。

【競技団体への取組】

各競技団体に対し、成年選手強化に係る書面による調査を行ったうえで、本県出身のトップアスリートの状況及び今後の成年選手の強化計画に係る詳細を把握するため聞き取りを実施しています。

訪問した企業数及び競技団体数（述べ数）

	訪問数
経済団体	32
企業及び事業所	31
競技団体	39

（平成27年8月28日現在）

銃剣道、アイスホッケー以外

【今後の取組】

競技団体からの聞き取りを9月末までに終了し、平成33年に本県で開催する国民体育大会に向けて、就職支援の目標数を確定するとともに、マッチングに向けた取組を行っていきます。

協議事項

三重県競技力向上対策基本方針における目標及び計画について

三重県競技力向上対策本部では、平成25年5月に「三重県競技力向上対策基本方針（以下「基本方針」という）」を策定し、平成33年の国民体育大会に向けて、計画的・総合的に取組を進めているところです。この中で、平成28年度からの3年間は「育成期」として、国民体育大会男女総合成績10位台、総合得点1,100～1,300点の獲得を目標として取り組むこととしています。このことから、「基盤体制づくり期」の最終年にあたる平成27年度には、基本方針における目標及び計画を見直すとともに、各事業の成果や課題を検討することで「育成期」の取組につなげていく必要があります。（資料1）

1 基本方針における目標及び計画の見直しについて（案）

(1) 競技スポーツを取り巻く環境の変化への対応

平成25年5月に基本方針を策定して以来、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定や、国民体育大会の新競技種目導入等、競技スポーツを取りまく環境が大きく変化しています。

このことに対応するため、「育成期」の取組の中に、「新たな競技種目の普及及び選手育成」に関する取組を計画の中に取り入れることとします。

(2) 本県競技力の現状への対応

平成24年から26年の国民体育大会の成績は、「三重県競技力向上対策基本方針」で定めた目標に到達していない状況にあります。一方、全国大会の入賞件数（全国中学校体育大会、全国高等学校総合体育大会、国民体育大会）は増加傾向にあり、とりわけ平成26年度は入賞件数116件と、県民カビジョンで設定した目標に到達するなど、全国大会で入賞するレベルの選手の育成は進んでいると考えられます。

このことから、基本方針における目標及び計画の中にある国体における目標順位、獲得得点や競技力向上のための取組等は、現行のとおりとし、引き続き、競技力向上に取り組むこととします。

なお、競技力の向上のための取組については、基盤体制づくり期における成果と課題を検証したうえで、「育成期」の目標達成に向けて、平成28年度取組について検討する必要があります。

2 基盤体制づくり期の「取組の柱」における成果と課題（資料2）

①ジュニア選手及び少年選手の発掘・育成・強化

少年選手の全国大会の入賞数や国民体育大会の獲得得点の伸びから、強化指定運動部や国体強化の取組について一定の成果が見られる。

今後は、ターゲットエイジの強化がさらに進むよう取り組む必要がある。

②成年選手の育成・強化

国体における成年選手の競技得点が伸び悩んでおり、大学運動部、企業・クラブチームの強化をさらに進める必要がある。

また、就職支援の取組を加速度的に進め、安定した競技力を確保する必要がある。

③指導者の養成・確保

指導者を対象にした研修会を定期的を実施し、強化指定運動部の指導者間や各競技団体間での連携を図ることで資質向上及び、意識醸成が図られた。

今後は、研修会を継続して実施するとともに、県内指導者をサポートするための特別コーチ事業や指導者確保の取組を進める必要がある。

④環境整備

競技力向上のための備品整備により競技得点の向上が見られた。今後は平成33年の国体へ向けて計画的に整備を進める必要がある。

⑤しくみづくり

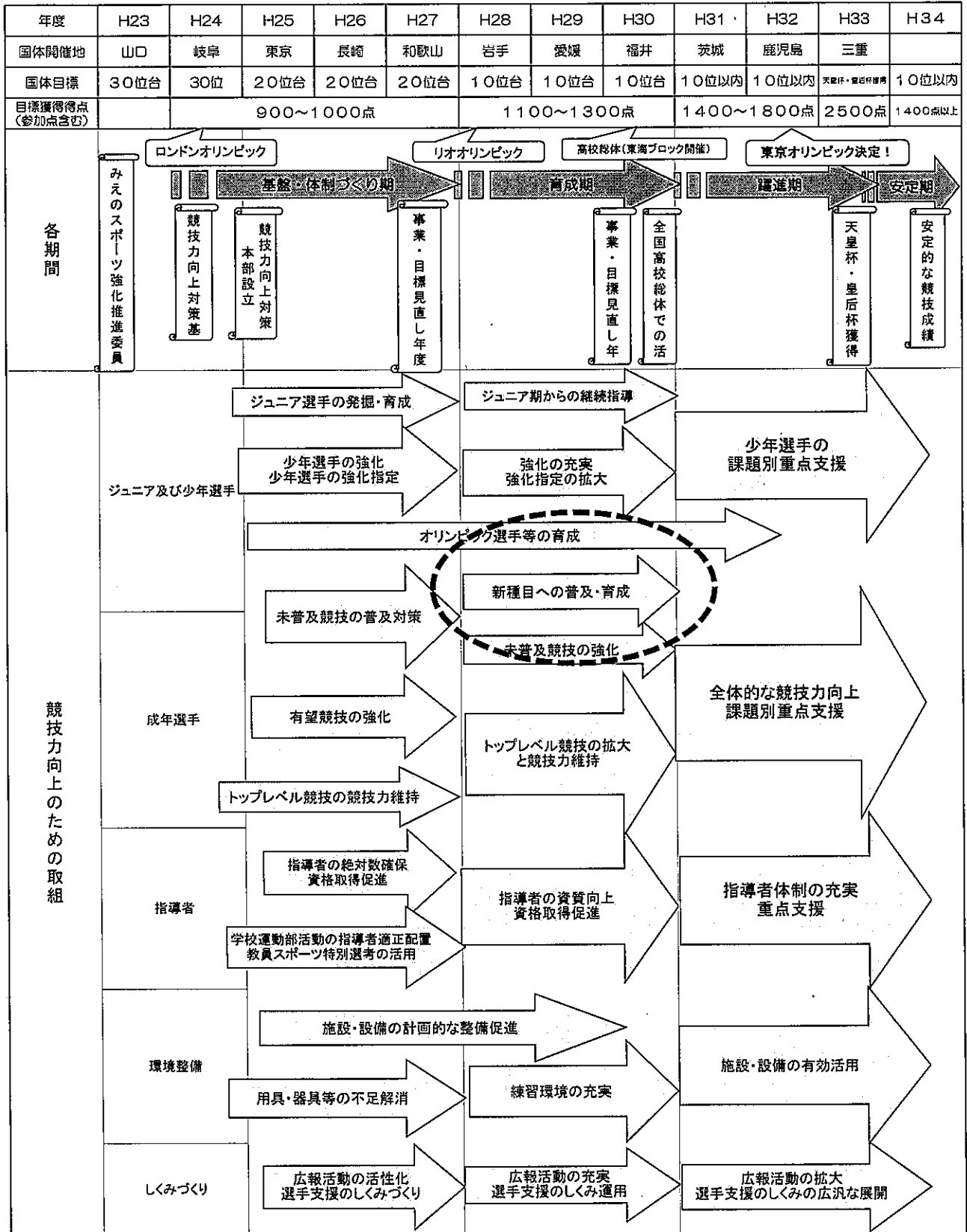
広報誌の発行等により県内中学校、高等学校への本県選手の活躍や競技力向上のための取組が周知された。また、トップジュニア育成事業における応援募金等、選手を支えるための仕組みづくりが進んだ。

3 育成期における取組の検討について

基盤体制づくり期の「取組の柱」における成果と課題を踏まえ、とりわけ、下記の項目について検証を行う必要があります。

- ①成年選手の競技得点の低下に対応する成年選手の育成・強化の取組について
- ②選手の育成のための指導者の確保について
- ③女子アスリートのサポートについて（新たな競技種目への対応含む）

三重県競技力向上対策基本方針における目標及び計画(案)



競技力向上の取組の検証について

1 成年選手の競技得点の低下に対応する成年選手の育成・強化の取組について

国民体育大会における本県成年選手の競技得点は減少傾向にあり（資料1）、育成期においては計画的かつ戦略的な取組が必要となっています。このことから、下記の事業をはじめ成年選手の競技力向上の取組について検討する必要があります。

①大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業

平成25年度より、成年選手の重点的な競技力向上を図るため、国民体育大会で活躍が期待できる大学運動部、企業・クラブチームを強化指定し、強化費等の支援を実施しています。

これまで、強化指定運動部及びチームの国民体育大会における獲得得点が低い現状にあります。このことから、平成33年の国民体育大会へ向けて、指定の方法や期間等について見直しを図る必要があります。（資料2）

②トップアスリート就職支援事業

平成27年度より、全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリートの就職支援に向けた取組を進めています。

競技団体に対する調査を通じて、平成33年までに就職支援が必要な選手数等を今年12月末までには取りまとめたとうえで、選手の採用のための企業訪問を行い、より具体的な依頼を行っていく必要があります。

2 選手の育成のための指導者の確保について

少年選手、成年選手の強化が進むためには、選手の育成とともに、指導者を確保することが非常に重要であることから、より効果的な確保の方法について検討する必要があります。

①スポーツ指導員配置事業

平成26年度より、全国・国際スポーツ大会で活躍する現役の成年選手を、ジュニア・少年選手指導者として、年間を通じて指導現場に派遣しています。

ジュニア・少年選手の選手育成は図られているものの、育成期においては、成年選手、チームの指導者としての役割に加えて、スポーツ指導員による獲得得点も視野に入れながら、配置する競技や人数等について検討する必要があります。

(参考) H26：水泳（飛込）1名

H27：水泳（飛込）、なぎなた、セーリング各1名

②特別コーチ配置事業

平成26年度より、国民体育大会での入賞につなげるため、全国・国際スポーツ大会で活躍した選手、指導者を競技団体に派遣しています。

定期的な派遣や、単発的な派遣の需要があり、競技特性や県内指導者の需要を考慮しながら、さらに充実させていく必要があります。

(参考) H26：水泳（競泳）、ウエイトリフティング、なぎなた、

バドミントン、ソフトボール

H27：ウエイトリフティング、陸上競技、ソフトテニス、レスリング、

テニス、ソフトボール、なぎなた、ボウリング、スキー、

バドミントン

3 女性アスリートのサポートについて

平成28年の国民体育大会より、オリンピック競技大会の実施競技種目に合わせて9競技10種目の女子競技種目が追加されることとなっており、これらの競技種目の女子選手の育成・強化が必要となっています。また、平成27年度より実施している女性アスリートをサポートするための、相談窓口設置や指導者研修会、競技体験会について、今後、より効果的な取組となるよう検討する必要があります。

①女性スポーツ指導者研修会（資料3）

初めての実施となる研修会において、月経に関するトラブル等の課題が提示されました。今後、調査研究した内容を研修会を通じて伝達するなど、女性アスリートやその指導者等に対して意識向上を図ることで、女性アスリートが継続して競技に取り組むことができる環境づくりを進め、競技力の向上につなげる必要があります。

②女性アスリートの相談窓口設置（資料4）

女性アスリートが競技を継続するうえでの身体的な課題をアンケート結果等から検証し、その解決に向けて、現場の選手の実態に合わせた取組を行う必要があります。

特に、窓口設置のタイミング、広報等を検討し、より効果的な事業を実施する必要があります。

③女子選手の発掘・育成（資料5）

女子ラグビー、自転車競技において、競技にふれあう体験会を11月頃に実施することとしています。今後、発掘された選手を中心に全国トップレベルのチーム、選手を育成するための仕組みを構築する必要があります。

これまでに全国の自治体が行っている「タレント発掘事業」では、国際舞台で活躍する選手を数多く輩出していますが、女子に特化した取組はこれまでに事例がなく、先進的な取組となるよう事業を構築する必要があります。

国民体育大会における天皇杯順位・入賞数・競技得点の推移

【総合順位】

	第65回	第66回	第67回	第68回	第69回
天皇杯(男女総合成績)	32	32	38	41	32
皇后杯(女子総合成績)	41	44	45	39	38

【入賞数】

		第65回	第66回	第67回	第68回	第69回
団体	成年男子	7	10	6	6	3
	成年女子	1	0	2	1	0
	少年男子	2	4	3	4	2
	少年女子	3	3	2	3	5
	小計	13	17	13	14	10
個人	成年男子	13	15	11	14	19
	成年女子	4	3	3	4	3
	少年男子	13	23	22	15	21
	少年女子	5	4	0	4	2
	小計	35	45	36	37	45
計	成年男子	20	25	17	20	22
	成年女子	5	3	5	5	3
	少年男子	15	27	25	19	23
	少年女子	8	7	2	7	7
計	48	62	49	51	55	

【競技得点】

		第65回	第66回	第67回	第68回	第69回
団体	成年男子	155.5	157.0	140.0	59.5	51.0
	成年女子	40.0	0.0	15.0	3.0	0.0
	少年男子	36.0	84.0	45.0	47.0	33.0
	少年女子	54.0	50.5	25.0	65.0	139.0
	小計	285.5	291.5	225.0	174.5	223.0
個人	成年男子	50.0	41.0	58.0	66.5	83.5
	成年女子	12.5	14.0	10.0	20.0	10.0
	少年男子	56.5	107.5	109.5	78.5	108.5
	少年女子	22.0	14.5	0.0	15.5	9.0
	小計	141.0	177.0	177.5	180.5	211.0
計	成年男子	205.5	198	198	126	135
	成年女子	52.5	14	25	23	10
	少年男子	92.5	191.5	154.5	125.5	141.5
	少年女子	76	65	25	80.5	148
計(参加点除く)	426.5	468.5	402.5	355.0	434.0	
参加点含む総計	816.5	858.5	792.5	745.0	834.0	

協議事項2資料2

大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業について（H25～27）

【A強化指定（H27）または強化指定（H26・25）チーム】※強化指定の対象となった該当年度に○

チーム名	性別	競技名	27年度	26年度	25年度	参考（H22～26年度の団体成績）
伊賀フットボールクラブくノ一	女子	サッカー	○	○	○	H22：4位（40）点
三重バイオレットアイリス	女子	ハンドボール	○	○	○	
NTN陸上競技部	男子	陸上競技	○	○	○ 5位（4）点	H23：8位（1）点 H24：2位（7）点 H25：5位（4）点
デンソー女子陸上長距離部	女子	陸上競技	○	○	○	
相好体操クラブ	男子	体操	○	○ 6位（15）点	○ 4位（25）点	H22：4位（25）点 H23：4位（25）点 H24：5位（20）点
エクセディ卓球部	女子	卓球	○	○	○	
三重県教員	男子	相撲	○			H22：5位（7.5）点
三重県警察（射撃）	男子	ライフル射撃	○			H23：8位（1）点 H26：7位（2）点
三重なぎなたチーム	女子	なぎなた	○			
北勢ライディングファーム	男女	馬術	○			H22：3位（6）点5位（4）点 H23：8位（1）点 H24：6位×2（6）点7位（2）点 H25：2位（7）点 H26：3位（6）点4位（5）点6位（3）点
名鉄乗馬クラブ・クレイン東海	男子	馬術	○			
株式会社安永弓道部	男子	弓道		○	○	H23：6位（9）点
鈴鹿国際大学女子ソフトボール部	女子	ソフトボール			○	
Honda HEAT	男子	ラグビーフットボール			○	H22：1位（40）点 H24：1位（40）点
Honda鈴鹿軟式野球部	男子	軟式野球			○	H23：4位（40）点
Honda鈴鹿ハンドボール部	男子	ハンドボール			○ 5位（12.5）点	H23：5位（12.5）点
団体得点合計				1チーム：15点	3チーム：41.5点	

【指定チーム選出基準】

H25～27：全日本選手権大会及び全日本大学選手権大会等において、過去3年以内に団体戦でベスト8以上、個人戦で複数人が3位以上の成績を収め、本年度も全国大会における活躍が期待できるチーム。所属団体と協議を行い、選出する。

※指定期間は単年度としている

【B強化指定（H27）または育成指定（H26）または結成指定（H26）チーム】

チーム名	性別	競技名	27年度	26年度	25年度	参考（H22～26年度の団体成績）
三重県警察（柔道）	男子	柔道	○			H25：5位（7.5）点
三重県警察（剣道）	男女	剣道	○			
女子三重クラブ	女子	ホッケー	○			
AGF陸上競技部	男子	陸上競技	○			
名張乗馬クラブ	男女	馬術	○			H23：4位（5）点
皇學館大学柔道部	男女	柔道	○	○ （育成指定）		
三重クラブ	男子	ホッケー		○ （結成指定）		

【指定チーム選出基準】

H27＜B強化指定＞：平成33年に本県で開催する国民体育大会での活躍が期待されるチーム及び国民体育大会に出場できていない成年種別において、新たにチーム結成を行い、三重県代表として出場するチーム。所属団体と協議を行い、選出する。

H26＜育成指定＞：将来全国大会で活躍が期待できるチーム。所属団体と協議を行い、選出する。

H26＜結成指定＞：現在、国民体育大会に出場できていない競技について、新たにチーム結成し、三重県代表として出場するチーム。所属団体と協議を行い、選出する

※指定期間は単年度としている

月経に関する本県強化選手の現状

～本県強化指定選手と国内トップアスリートとの比較～

		国内 トップアスリート 242名 ※1	本県 強化指定選手 310名 ※2	
1	月経に対する不安を持っている選手の割合		約40%	27.2%
2	産婦人科受診率		30%	9%
	受診理由(延べ人数)	月経への不安	29名	13名
		月経痛	15名	7名
		検診	15名	7名
その他		16名	7名	
3	月経に対するセルフケアをしている人の割合		36.4%	17.3%
	ケア内容(延べ人数)	薬の服用	67名	37名
		基礎体温の計測	22名	11名
		練習量の調整	15名	5名
		周期に合わせた薬の服用	6名	4名
その他		2名	4名	
4	月経移動の知識について知っている人の割合		53.3%	6.1%
	月経移動について (延べ人数)	必要はない	66名	208名
		移動したことがある	11名	26名
		日頃からしている	5名	7名
		移動してみたい	40名	24名
	してみたいが、実施しない理由 (延べ人数)	不安	27名	14名
		副作用が心配	3名	10名
		ドーピングが心配	2名	5名
その他		10名	5名	

※1 国内トップアスリートの数値についてはJISS調べ(女性アスリートのためのコンディショニングブック(2013))参照

※2 本県強化指定選手のアンケート結果より抽出(2015年7月28日 三重県体育協会)

みえ女性アスリート専用電話窓口

生理についての相談

～気軽に相談してみませんか？～

今不安に思っていること

三重県内の女性アスリートの相談に対する専用窓口を設置することで、女性特有の問題など女性アスリートが抱える悩みを相談できる窓口を明確にし、女性アスリートに対するサポートの充実を図ることを目的としています。

【対象】

1. 中学校及び高等学校強化指定運動部の選手
2. 大学運動部、企業・クラブチーム強化指定チームの選手
3. 国体選手(候補選手含む)
4. 上記の指導者及び保護者

【専用電話番号】 **080-8251-9687**

※通話料は利用者負担となりますので、予めご了承ください。

4人の先生が相談に乗ってくれるよ!!

【協力医師】

かみもと ゆき
神元 有紀 先生

三重大学病院 産科婦人科 講師・医局長

むらばやし なお
村林 奈緒 先生

三重大学病院 産科婦人科 助教

むらまつ はるみ
村松 温美 先生

市立伊勢総合病院 産科婦人科 部長

かきまる けいこ
金丸 恵子 先生

金丸産科婦人科 院長

【コーディネーター】

三重県産科婦人科医会
会長 **森川 文博 先生**

(医療法人森川病院 理事長・院長)

気軽に
相談してね♪

【相談日時と担当の先生】

- 第1回:8月1日(土)15:00~16:00<神元先生> 第2回:8月5日(水)19:00~20:00<村林先生>
 第3回:8月8日(土)16:00~17:00<村林先生> 第4回:8月9日(日)12:00~13:00<村林先生>
 第5回:8月9日(日)18:00~19:00<村林先生> 第6回:8月16日(土)17:00~18:00<村松先生>
 第7回:8月23日(日)17:00~18:00<金丸先生> 第8回:9月13日(日)17:00~18:00<金丸先生>
 第9回:9月20日(日)9:00~10:00<神元先生> 第10回:9月25日(金)17:00~18:00<村松先生>
 第11回:10月9日(金)17:00~18:00<村松先生> 第12回:10月17日(土)10:00~11:00<神元先生>
 第13回:10月25日(日)17:00~18:00<金丸先生> 第14回:11月7日(土)10:00~11:00<神元先生>
 第15回:11月20日(金)17:00~18:00<村松先生> 第16回:11月29日(日)17:00~18:00<金丸先生>

※担当の先生に急患や手術等の予定が入った場合は、相談窓口実施予定時間であっても、電話が繋がらないこともあり
ますので、予めご了承ください。

【相談内容】

- ・月経について(月経調整、月経異常など)
- ・その他、女性特有の問題など、お気軽にご相談ください

全国的な地域タレント発掘事業 ～地域から世界へのパスウェイ～

	地域	プロジェクト名	開始年
1	北海道	北海道タレントアスリート発掘・育成事業	2014
2	美深町	美深町タレント発掘・育成プロジェクト	2005
3	中川町 音威子府村 美深町 名寄市 下川町	上川北部広域タレント発掘・育成事業	2009
4	秋田県	AKITAスーパーわか杉っこ発掘プロジェクト	2009
5	岩手県	岩手スーパーキッズ発掘・育成事業	2007
6	山形県	山形県スポーツタレント発掘事業	2009
7	宮城県	みやぎジュニアトップアスリートアカデミー	2013
8	長野県	SWANプロジェクト	2009
9	埼玉県	彩の国プラチナキッズ発掘育成事業	2011
10	東京都	トップアスリート発掘・育成事業	2009
11	京都府	京の子どもダイヤモンドプロジェクト	2011
12	和歌山県	和歌山県ゴールデンキッズ発掘プロジェクト	2006
13	山口県	YAMAGUCHIジュニアアスリートアカデミー	2009
14	福岡県	福岡県タレント発掘事業	2004

国際舞台で活躍する
地域タレント発掘事業出身
アスリート数

35人

地域タレント発掘事業出身
アスリートが獲得した
全国1位

73タイトル

都道府県を代表して活躍する
地域タレント発掘事業出身
アスリート数

のべ248人

(2014年12月1日現在)

参考資料

三重県競技力向上対策委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、三重県競技力向上対策本部規約第11条の規定に基づき、三重県競技力向上対策委員会（以下「委員会」という。）の組織および運営に必要な事項を定める。

(業務)

第2条 委員会は、本部会議から付託および委任された専門的な事項について、調査・審議する。

(役員)

第3条 委員会に次の役員を置く。

(1) 委員長 1名

(2) 副委員長 若干名

2 役員は、本部長が委嘱する。

3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(委員)

第4条 委員は、次の各号に掲げる者のうちから本部長が委嘱した委員をもって構成する。

(1) 県関係者

(2) 市町関係者

(3) 産業・経済関係者

(4) 学校・スポーツ団体関係者

(5) 学識経験者

(6) その他本部長が特に必要と認める者

(委員の任期)

第5条 委員及び役員の任期は、本会の目的が達成された日までとする。ただし、委員が就任時の所属機関及び団体等の役職を離れた場合、その委員は辞任したものとみなし、その後任者が前任者の残任期間を務めるものとする。

(会議)

第6条 委員会は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 委員会は、委員の過半数の出席がなければ開会できない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 委員長が必要と認めるときは、委員以外に専門的知識を有する者の出席を求め、必要に応じて専門委員会を開催し、意見を聞くことができる。

(委任)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が本部長の承認を得て別に定める。

附 則

この規程は、平成25年5月29日から施行する。

三重県競技力向上対策本部 競技力向上対策委員会

(委員長：1名、副委員長：1名、委員：21名、計：23名)

【委員長：1名】敬称略

選出区分	所属機関・団体・役職名	氏名
県関係	三重県地域連携部スポーツ推進局長	村木 輝行

【副委員長：1名】敬称略

選出区分	所属機関・団体・役職名	氏名
学校・スポーツ 団体関係	公益財団法人三重県体育協会理事長	東地 隆司

【委員：20名】敬称略、順不同

選出区分	所属機関・団体・役職名	氏名
県関係	三重県教育委員会事務局次長	中嶋 中
市町関係	伊勢市産業観光部観光振興課副参事	松葉 清高
	東員町教育委員会事務局社会教育課長	石川 清
産業・経済関係	株式会社 エクセディ執行役員管理本部副本部長	山村 佳弘
	株式会社デンソー大安製作所長	堀 誠
	本田技研工業株式会社四輪生産統括部鈴鹿製作所 総務ブロック ブロックリーダー	柳田 雅彦
	相好株式会社代表取締役	山本 将之
学校・スポーツ 団体関係	公益財団法人三重県体育協会強化・普及委員会委員長	沖田 稔
	三重県中学校体育連盟理事長	太田 秀樹
	三重県高等学校体育連盟理事長	堀越 英範
	鈴鹿市立神戸中学校 剣道部顧問	北林 奈津子
	県立宇治山田商業高等学校 陸上競技部顧問	小池 弘文
	県立朝明高等学校 レスリング部顧問	橋爪 幸彦
	県立四日市中央工業高等学校 サッカー一部顧問	樋口 士郎
	三重高等学校 ソフトテニス部顧問	神崎 公宏
	皇學館大学 柔道部監督	佐藤 武尊
	三重バイオレットアイリス監督	櫛田 亮介
	三重県水泳連盟強化責任者(競泳)	八田 知宏
三重県ボート協会強化責任者	丸山 亮太	
学識経験	社会医療法人峰和会鈴鹿回生病院院長	加藤 公
	三重大学教育学部教授	杉田 正明



平成33年 第76回国民体育大会
2021

愛称

三重とわか国体

スローガン

ときめいて人がやいて未来